

平成19年7月31日
全国高等専修学校協会
制度改善研究委員会

平成18年度高等専修学校母校訪問実施状況調査アンケートの結果について

1. アンケートの結果の概要

回答校：24校（実施校：15校、未実施校：9校）
実施学年：1年13校、2年8校、3年8校（複数回答、以下同）
実施時期：7月8校、2月6校、12月5校、6月5校、10月4校、11月3校、
9月2校、1月2校、他
実施回数：1回26校、2回7校、6回1校
訪問校数：1～155校
実施人数：7～185人
マニュアル：使用した3校、使用しない12校

2. 問題点

- ・特になし。
- ・不登校だった学生が多く、いきたがらないのが現状です。
- ・当時の先生が転任しており、不在など。
- ・今年度は学校行事、授業時間確保のため実施できませんでした。今後更に授業時間数増の方向で動きがあれば、一層困難になるのではないかと心配です。
- ・学校行事、進路指導などで3年生の実施ができなかったが、来年度は予定している。
- ・今のところ問題点はありません。
- ・お世話になった先生が異動していて3年生は担任（当時）の先生に会えなかった生徒が多かったこと。中学側への事前連絡の対応が必要であると感じた。
- ・地方出身者の訪問時期。担任が転校している。
- ・訪問日・時間を考える必要があります。先生方の移動もあるため、必ずしも会えるとは限らない。行事・試験などで先生に会えないということもありました。（職員会議を含む）
- ・中学3年生のときの担任を訪問するが、授業のときや、当校3年生の場合は転勤していたということが時々ある。
- ・学校の広報活動で中学校を訪問し、進路担当や3年生学年主任担当先生と面談しますが、その際、在学生徒やOBの近況を報告するも、相手側が人事異動で毎年、顔ぶれが代わるためか、存じない先生が結構多い。
- ・職員の転勤等。

3. 工夫された点

- ・各科の特色あるものを持参させ、中学の先生に本人の成果として報告させた。
- ・生徒自身は訪問しませんでした。親しい先生に手紙を書き、教員が訪問する際、持参しました。

- ・生徒が持参できるものを準備した。
- ・ほとんどの生徒が学校や先生に対してあまり好意を持っていなかったため、絶対的な信頼関係と密にコミュニケーションを図り、母校訪問する自信をつけさせた。
- ・生徒が授業で作ったマドレーヌを持たせているが、今年度は1年生の実習中の写真も一人ひとりに持たせました。
- ・3年生は進路決定の報告を合わせて行った。
- ・前もって電話連絡をし、行き違いのないよう指導し、1学期で制作した作品等を持って、実習の成果を見てもらうように指示している。
- ・担任教員の移動を考え、訪問学校及び訪問時期、日時を検討している。
- ・ビジネスマナーの一環として学校で事前に練習した、名刺交換の方法を中学校の先生方に実践して、成長した姿も見せ、入試日程も持参させ、広報活動につなげたこと。
- ・夏休み、冬休みの帰省時に訪問させた。(地方出身者)
- ・特別にありませんが、行事の後に行くことにより、本校の様子も伝わるのではないかと考えます。(4月、1年生は校外学習、6月スポーツ大会・2年修学旅行)
- ・卒業後の進路について重点的にアピールしました。
- ・学校行事・文化祭招待を兼ねて母校を訪問させている。
- ・1年生は、1学期の成績が集計できた時点で行かせている。3年生は進路先がほぼ確定した時点(1月)で行かせている。

4. 中学校側の反応

- ・忙しいなかでも時間をとっていただき、決して悪い反応はなかった。
- ・該当の先生がいらした時は、非常に喜んでいらっしゃいました。
- ・生徒募集で訪問した際、評判が良かった。
- ・学校訪問はできませんでしたが、当校行事に参加くださるよう各自電話をいたし、大変喜ばれました。
- ・確認書のコメントによると、良い印象だった。
- ・回答用紙を持たせてコメントをもらってくるのだが、評判は非常に良く、特にマドレーヌを心待ちにしている学校もある。
- ・生徒一人ひとりの成長を喜んでいただいた。また、3年生の進路決定には驚きとともに、感謝の言葉をいただいた。合わせて訪問により中3生の紹介を受けた所もある。
- ・生徒が現在学んでいる様子や姿勢に対して、励ましや助言をいただいて生徒本人の刺激にもなった。中学校側は良い反応であった。
- ・良好
- ・成長した姿を見て、喜んでくれた先生が多く、出前授業や上級学校訪問の要望をいただいた。
- ・子どもたちの成長に感動していた。
- ・先生方にとっても、どういう生活を送っているのか心配であると考えます。反応は良好でした。
- ・3年生の母校訪問については、生徒の中学校に在学時に在籍していた先生の有無によって反応が大分違っていたと感じました。担任の先生に会えた生徒に対する反応は

非常に良かったです。

- ・担任宛に一筆等も持参しているので、喜んでいただいている。
- ・喜んでくれる。
- ・将来の進路先について関心が強い。

5. 実施できなかった理由

- ・不登校だった生徒が多く、行きたがらないのが現状です。
- ・中学校の都合のいい時期と本校の学校行事の日程等の関係で実施できていません。
- ・従来、学校行事への案内の手紙を近況報告を兼ねて世話になった先生へ生徒から出すようにしている。学校訪問は検討中である。
- ・1, 2年生については、「在校生の声」というパンフを作り各学校に送付しました。
- ・広報担当者が訪問する程度で、在校生の訪問はありませんでした。
- ・中学校の先生方の負担を考えたのと、生徒がしっかり受け答えができるかが不安のため。
- ・学校側が母校訪問を意図する働きかけは生徒側にはしておりませんが、個々の生徒が恩師を訊ねての訪問はあるようですが、件数は把握しておりません。
- ・従来、積極的に生徒の母校訪問は行っていませんでしたが、中学校の先生達の当校への理解を深めるためには、良い方法と思います。今後、生徒の母校訪問を検討してみたいと思います。
- ・11月の検定試験対策に忙しく実施できなかった。

6. 総括

はじめに、今回のアンケート調査に協力して頂きました高等専修学校の皆さん、アンケート結果のお知らせが大変遅くなりましたことをまずもってお詫び申し上げます。

さて、今回のアンケート調査の総括ですが、回答校が24校と全体の1割であったことが何よりも残念でありました。そもそも、この母校訪問を全国的に展開しようとの意図は、なかなか理解して頂けない専修学校の高等課程、高等専修学校をより多くの中学校の先生方に正しく認知して頂き、更には、生徒募集の活性化を狙ったものがあります。この運動の背景には、高等専修学校の生徒数の激減、更には教員減の状況下で、経費がかからず、その上ピンポイントの広報が出来るという利点があると考えています。

今回のアンケート調査でも、実施した学校の様子を見ると、中学校の先生の異動という問題がありましたが、概ね中学校の反応は良好であり、母校訪問の手応えを確実に感じていることが分かります。

今の高等専修学校で、生徒募集のために、継続的な新聞広告、ましてや、専門学校のようにテレビコマーシャルを打つことが出来る体力はありません。今後、実施を検討している学校におかれましては、今回のアンケート結果を契機に是非実施の方向でご検討頂き、会員校の草の根運動で高等専修学校の振興を多いに図れればと願っております。

(文責：制度改善研究委員会委員長 清水)